



シヨットというのも、オツなものですが、一見優雅な生活のようですが、収入がなく蓄えを食い潰すだけの生活なので賢く節約することが求められます。同時に、現地で生活させてもらっているという謙虚な気持ちで、地域に溶け込む努力が必要だと思います。

ロングステイを始めるにあたり、滞在先の情報収集を徹底的に行いました。インターネットのおかげで、最新の情報を手軽に効率的に調べることができました。電子メール、日本との電話、日本のニュース、写真の送付などにインターネットを活用しており、パソコンはロングステイの必需品となっています。

マイレージやデビットカードを活用

日常の支払いはできるだけ航空会社のマイレージの貯まるクレジットカードにして、無料航空券をゲット。また、インターネットで格安運賃を検索。定期的に同一地を往復するならば、現地発の航空券の方が安い場合もあります。さらに、格安航空券は往復同時購入で日程変更不可の場合が多く、不都合を感じておりました。最近ではオーストラリア線にも片道ごとに購入できる格安航空会社も出始め重宝しています。

現地では日本のクレジットカードでも支払いができますが、現地銀行の口座を作るのが何かと便利です。オーストラリアやニュージーランドでは、銀行口座から即時に引き落としで支払うデビッ

トカード(EFTPOS)が広く普及しています。これを利用して100ドルで払ったことにして、そのお釣りを現金でもらうことができます。また、為替差益を享受するため円高の時に外貨預金をしておき、現地銀行口座に送金するようにしています。

海外旅行傷害保険は、クレジットカードの自動付帯保険(無料)を利用。これは自動的に出国後90日間有効ですが、それ以上滞在する場合は、利用付帯型のカードを作っておけば利用してから90日間有効となり、合わせて最大180日間カバーされます。また保険金額はカードごとに加算されるので、複数持っているほど手厚いカバーが得られます。

高い日本食材にはこだわらない

日本食材は比較的容易に手に入りますが、日本の2〜3倍の値段です。調味料(醤油、味噌など)は日本から持参し、肉類、乳製品、野菜・果物などは安く手に入るので工夫次第で日本風の味付けもできます。また近くの釣り場で新鮮な海の幸を手に入れることもできます。週末には各地で朝市があり、新鮮な野菜・果物、日用品が安く買えます。私は食事にあまりこだわりがなく、もっぱら良質で安価なチーズとワインを楽しんでいます。

夢のゴルフ三昧でも、節約術は徹底して

管理業務を手伝いながらゴルフ

生活の拠点は日本に残したまま季節ごとに気候の良い所に滞在する「ひまわり型ロングステイ」で、好きなゴルフ



ゴールドコーストには割安な価格で利用できるゴルフ場が数多くあります。ただし、自分でカートを引いてプレイするのが一般的。これはスウィングで削った芝生を修復する砂を入れたバケツ。スタートと共に持参するのが当地のマナーです

上木 良平 じょうき・りょうへい

1950年生まれ。2005年、55歳でソフトウェア会社を早期退職し、海外で気軽に安くゴルフを楽しもうと、オーストラリアとニュージーランドで念願のロングステイを実践中

を楽しんでいます。

滞在先を選ぶ基準は「まずゴルフ環境が整っていて、四季があり、温泉(露天風呂)があつて、さらに英語圏で治安が良く、医療面も充実していて、物価もそこそこ安く、日本との時差があまりないこと(欲張りですが)」。その結果ニュージーランドがベスト。また、隣国オーストラリアも温泉以外は私の基準を満たしています

オーストラリアのゴールドコーストで友人が経営するロッジの管理人(業務は清掃、買物、夕食準備など)として、2〜3カ月程度滞在し、仕事の合間に、週3回程度ゴルフを楽しんでいます。目標のエージシュート(年齢以下のスコア)達成は90歳あたりになりそうで、あと30年も頑張らないといけません。

お気に入りのゴルフスタイルは、ラウンド後に露天風呂に浸かって、風呂上がりに土地のワイン、これが最高! 一番好きなのは、ニュージーランドの片田舎の市民コースで自然と調和しながらプレーすること。ゴルフ場と羊の放牧場が混在しているようなコースでゴルフの原点を感じつつ、羊を横目に見ながらティー



上:新鮮な野菜が並ぶ朝市
下:マルチカルチュラル・フェスティバル

私のロングステイ家計簿 (30日間)

宿泊費・光熱費※1	600ドル
食費	300ドル
通信費※2	50ドル
交通費※3	100ドル
遊興費※4	150ドル
総費用	1,200ドル

※1:ルームシェア、ホームステイの場合
※2:インターネット接続料
※3:ガソリン代
※4:ゴルフ代
単位AUS 1ドル=81円(2009年11月20日現在)

見習いたいゴルフマナー

ゴールドコーストはゴルフ場の質、量ともに申し分ありません。ゴルフ料金は日本より安いのですが、メンバーになるとさらに安くプレーができ、メンバー仲間との交流も深まり、ゴルフの楽しさ倍増です。日本の会員権方式と異なりメンバーは年会費を払うとプレーし放題です。短期メンバー(1カ月から)を用意しているコースもありますので、まさに「ゴルフ天国」です。

田舎に行くとは係員不在のゴルフ場があり、「オネステイボックス」という料金箱にプレー代を入れてゴルフを楽しんでいます。また、スウィングで削られた芝生を修復するために使う目土(砂)を入れる小さなバケツが鉄パイプにぶら下げてあり、手引きカートに引っ掛けてスタートしていきます。親子連れをよく見かけますが、親は子どもに打つ技術よりもマナーを最初に教えています。このような自然なさりげなきはゴルフの

郷に入っては郷に従え

長い伝統・歴史からくるもので日本も見習いたいものです。

現地の友人をたくさんつくと、行動の幅も広がります。ある程度の語学力は必要ですが、それよりも臆せず堂々と「私はあなたと友だちになりたい」ということを相手に示すことが大切だと思います。

インターネット等で溢れているロングステイ情報は、「バラ色」の側面だけを扱ったものが大半で「一抹の不安を感じます。長期間滞在すると見えてくるネガティブな面も文化や国民性の違いとして受け入れる鈍感さも必要だと思います。

「郷に入っては郷に従え」。日本の常識を振りかざすのではなく、現地で「生活させてもらっている」という謙虚な気持ちで、スマート・ロングステイができると思っています。